

## 2019年開設めじし、 京都市民医連中央病院を 右京区南太秦に総合移転します

専務理事 高梨輝子



2016年3月20日、京都保健会は創立60周年を迎えます。京都市民医連中央病院が京都市民医連のセンター病院として誕生したのが1987年3月です。当会の60年の後半30年近くは、京都市民医連中央病院を擁して歩んできました。そして、今年6月の社員総会に、右京区南太秦に病院機能を全面的に移転することを報告しました。新病院の開設は2019年をめざして準備を開始しました。

京都市民医連中央病院の建設は、1978年京都市民連第24回総会で決定され、その中で、「医療レベルの向上、医師の養成と結集、地域拠点病院・診療所の医師体制の強化、京都市民医連の三次病院としての機能も持つセンター、看護婦養成」が建設の目的として確認されています。建設決定後は、京都市民医連の共同事業として成功させるため、すべての法人が人もお金も集め、9年の歳月を経て開設するに至りました。その際、新病院は当会が管理運営を担う法人になりました。それ以来、28年間、京都市民医連中央病院は、医療制度の度重なる変更や、医療費削減政策など様々な困難な環境の中で紆余曲折はありましたが、当初の目標を確実にこなしながら、京都市西北部における急性期・教育病院としてのポジショニングを定め、次の時代へ向けて新しい一歩を踏み出すところまで前進してきました。

京都市民医連中央病院なくして、京都保健会、京都市民連の発展はなかったと言えます。当会が、2011年に公益法人としての認定を受けられたのも、中央病院を中核にしたネットワークがあったからです。一方、病院の経営は非常に困難を極め、他の病院ともども、長年、診療所に支えていただきました。市内病棟構造転換事業で、2011年10月より西館が地域医療棟として稼働し、本館の急性期機能を強化するなかで、経営改善に努力し、2カ年連続で経常利益予算を達成するまでになりました。病院の奮闘と合わせて、法人上

げでの努力が実を結んできたと思っています。さて、中央病院は、開設後20年を経過した頃から、建物や付属設備の老朽化がすすみ、大小の改修を繰り返してきました。また、近隣の病院が次々とリニューアルするなかで、多床室中心で、しかも旧基準で狭い部屋であるという療養環境の問題が、患者さんが入院施設として選択する上で、他の医療機関からご紹介を受ける上でハードルとなってきました。それ以上に、急激に進歩してきた医療のレベルに対応することが、施設上も医療機能上も困難になっていきます。このことの解決をはからなければ、京都市民医連中央病院の未来はないという判断から、今回の総合移転を決定しました。

昨年からは病床機能報告制度が始まり、地域医療計

京都保健会 設立60周年 記念事業  
無低事業の書籍ができました

## 『いのちをつなぐ 無料低額診療事業』

吉永 純 (花岡大学教授 / 公益社団法人京都保健会 ◆ 編著)

A5判・212頁

クリエイツかもがわ発行

【特価】 定価2160円→2000円 (税込)

法人事務局へご注文の方は特価・送料サービスいたします

TEL: 075-813-5901

FAX: 075-813-1721

「無料低額診療事業」は単なる自己負担の減額・免除制度ではなく、「支払い困難になった生活問題(生活保護や年金受給、障害者向け医療の利用や借金問題の解決など)を手助けする医療ソーシャルワーカーの支援付き医療制度であること」が広く理解できる内容です。

▼貧困の拡大や医療保障制度の後退で、今こそ出番の「無料低額診療事業」…必要性と課題、発展方向を提案

▼事業を取り組むために役立つ制度の詳細や事務取扱も紹介。資料も充実の30ページ

